

市民と市長の意見交換会<小木地区> 質疑要旨

日時：令和6年2月4日（日）14：00～15：30 会場：小木多目的集会施設（あゆす会館）

参加人数：27名

1. 市政について

市長より説明	<p>(あいさつ内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○能登半島地震の被害に対する市の今後の対応について（地域防災マップの内容に従った避難の徹底を！） ○約4年間の施策の大きな2つの成果について（必要不可欠なインフラ整備：光回線全島敷設、国直轄の両津港改修事業） ○小木～直江津航路へのカーフェリー導入と両津～新潟航路のJF3隻体制による島民サービスの向上について <p><令和6年度施策方針について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○支所・サービスセンターを中心に、地域住民と相談しながら地域をどのようにしたいか考え共に作り上げて欲しい ○島の未来づくりの土台としての「教育」と「行政改革」について ○「持続可能な島の実現」に向けた戦略について <ul style="list-style-type: none"> ①「子どもから高齢者まで夢や希望が持てる島」について <ul style="list-style-type: none"> ・移住人口増で社会減をゼロにするとともに、『産み育てやすい社会』をつくる ②「元気な経済と多様な人が活躍する島」について <ul style="list-style-type: none"> ・体験型観光で観光客を関係人口へ、そして交流人口へとつなげる ・企業を呼び込み起業も促進 ・循環型社会の実現で経済も動かす ③「防災力が高い安全・安心な島」について <ul style="list-style-type: none"> ・停電時のEVバッテリー活用で脱炭素と防災力の強化にもつなげる ・地域の拠点避難所となる集会場等に支援物資などを備蓄する仕組みを検討 ④「医療・介護・福祉を守る島」について <ul style="list-style-type: none"> ・医療の確保に政策を総動員して取り組む ・医療の課題を介護、福祉で補完。医療・介護の負担軽減のため健康寿命日本一の島の実現に向けて取り組む
--------	---

2. 質疑や意見

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
小木大浦	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅土地統計調査で佐渡市は1980年以前に建てられた住宅が49%と新潟県内20市で1番比率が高く全国でも16番目と聞く。一方小木町地区では重伝建選定に向けた取り組みを進めている。防災の観点からは古い建物を守りつつ地震災害から市民を守るという問題の両立のため市はどのように取り組むのか？また市民は何を心がけて行くべきか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度予算において、耐震診断の補助制度を検討しているほか、耐震診断に対する国県の支援も要請している。 ・個々の市民の対応としては、まずは命を守る行動をとって逃げる事。 ・初期対応としての自助、共助の仕組みづくりを地域でも支所、行政サービスセンターと共に改めて考えて欲しい。 ・小木町の重伝建地区の保存活用の取組みとして、地域の皆様と相談しながら地震等の防災対策を関係課で連携して検討いたします。 	防災課 世界遺産推進課
小木町：上町	<ul style="list-style-type: none"> ・旧小木地区体育館跡地が更地になっている。原形（田）に復旧して地主に返すという話も聞いているが、もっと活用しても良いのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政財産は目的財産で条例に活用が決められている。それ以外は普通財産で不要なら返還か売却が基本。返還する際は原形復旧が基本だが様々なケースが考えられるので話し合っていきたい。活用については様々な提案も来ているが未だ具体的な計画は決まっていない。市の単独費での整備は不可能で、国県の補助金等を活用しての整備しかない。今後も地域の皆様と議論しながら決めていきたい。 	教育総務課
小木定住団地	<ul style="list-style-type: none"> ・団地の空地が周辺地域の一時避難所になっている。しかし建物は無く避難しても野ざらしである。地域としても20年位前から団地の集会場建設を要望しているが未だ建設されていない。 ・今回の地震避難で感じたのは、備蓄品が小木地区全体で考えると絶対的に不足していると思う。各集落にコンテナ1つでも良いので用意してはどうか。 ・Uターンで来た人に対するメンテナンスが行き届いていない。住民が交流できる場所が地域内に無いためである。更に未だに団地の3区画が空地となっているが、市が積極的なPRをしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄品の量については、人口の12.5%分という一定の基準がある。また不足すれば他の備蓄拠点から補充するという考え方である。しかし、能登半島地震の教訓として1か所に大量の物資があった方がよいのか、多地点にあった方がよいのか再度検討していきたい。 ・一時避難場所は災害発生直後の避難場所、その後は拠点の避難所に移動することを想定しているので、必ずしも建物があるわけではない。 ・単に集会場を建設する補助金は国、県にも無い。他地区であっても同様に建設は難しい。 ・今回指摘を受けて、定住団地の区画に限らず販売目的の物について販売を促進していきたい。 	防災課 財産管理課

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
小木町：旭町	<ul style="list-style-type: none"> ・南佐渡地域医療センターが無くなるのではないかと話を聞いている。医療・介護・福祉を守るというお話が先ほどあったが、市長はどのように考えているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院を存続させる方向で厚生連と話をしている。しかし、入院病棟を抱えると医師1名では対応できない。よって入院病棟の運営を残せるかどうかは別問題。 	健康医療対策課
小木町：旭町	<ul style="list-style-type: none"> ・島内には危険な家屋・廃墟が多数あり、小木地区にも5階建ての元ホテルの廃墟があり私はその横に住んでいる。今回の地震で命の危険を感じた。 ・世界遺産登録や今回の能登半島地震を受けて改善の方向性があるのか。 ・取り壊しに向けて地域住民がアクションを起こせば対応可能になるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間の建物を壊すのに行政のお金は入れないというのが原理原則である。行政が対応してしまうと誰もが責任を持って管理しなくなる。但し、市民の安全安心が侵される状況になればその状況を除去するための一定の工事等は対応したいと考えている。 ・国にもこの状況は訴えている。佐渡市だけで対応は出来ないので国全体で考えて制度の創設を待つしかない。 	生活環境課
小木町：白坂町	<ul style="list-style-type: none"> ・能登半島地震でも問題になっていたが、災害時に愛するペットと共に避難所に避難できるよう佐渡市も受け入れ態勢を考えて欲しい。 ・ペット同行避難のために、先進的な自治体では事前にペットのスペースを確保し、防災倉庫に「スターターキット」を設置しているそうですので佐渡市も検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・震度7クラスでは食料も無いという状況が考えられる。そのような中でペットも避難所に対応できるのか検討が必要。 ・現在はペットも家族だということで、改めて議論しながら考えていきたい。 ・ペット用スターターキットは、令和5年末時点で市内3か所（金井コミュニティセンター、相川小学校、羽茂小学校）の防災倉庫へ配備済みで、今後21か所の市内防災倉庫へ順次設置予定。 ・ペット同行避難への対応につきましては、新潟県佐渡保健所及び新潟県獣医師会等の公的機関とも連携し協議を進めている。 	生活環境課